

日本家政学会第74回大会
被服整理学部会企画



出島二番蔵の蘇芳

古代の染色が 現代に問いかけること —九州ゆかりの染料を例にとって— 2022年5月29日（日） 9:00~10:30 B会場：Zoom

現代人にとって“色”は、生活に彩りを添え自分の好みの配色を得るための要素である。一方、古代では、染料には薬用効果も期待されており、現在でも天然染料の薬理作用を利用した薬が製造されている。本講演では、天然染料を用いた衣料品の開発に携わった経験や、合成染料にはない天然染料の魅力をお話しいただき、古代の染色が現代に問いかけることは何かを考える機会にしたい。 企画：被服整理学部会長 木村美智子



宇佐神宮にて
黄櫨染御袍
取材中の青木氏

【講師】

京都光華女子大学短期大学部 青木正明氏

株式会社ワコールでのMD業務を担当したのちに起業。
天然染料のみを使用したブランドtezomeyaの
企画運営による衣類製造販売業を続けている。

大分大学教育学部

都甲由紀子氏

天然染料による染色やブータンの衣生活文化について
研究している。染色教材の開発もしている。